

06.

国際交流委員会

国際交流委員会

工藤 正俊

(近畿大学医学部消化器内科)

国際交流委員会は平成2年4月に設立された。本委員会の目的は①世界超音波医学学術連合(WFUMB)に関する件、②アジア超音波医学学術連合(AFSUMB)に関する件、③本学会が主催する国際会議の開催に関する件、④その他本学会の国際交流に関する件を審議する為の会として発足した。私は第5代目の国際交流委員会委員長として松崎先生の後を継ぎ、委員長になり、以後2002年から10年、5期に渡り委員長を務めている。これは国際交流委員会がAFSUMBやWFUMBとの理事を兼任することが慣例であったことによる。渡邊決先生などの進言によりこのような国際的な学術連合とのつながりにおいては人と人、顔と顔とのつながりが非常に重要であるとのことであるため、長期間委員長を務めて頂いている。現在、私はAFSUMB関係に関しては2001年のクアラルンプールの会から理事となり、2004年の宇都宮の理事会からはSecretary、2007年のバンコクの会からはPresident-electになり、2010年のインドの学会からはPresidentになる予定であった。一方、WFUMBの方では2003年モンテリオールで理事として入り、当時はImmediate past-presidentが渡邊先生であったが、2006年ソウルの学会から、Vice president 2になり、2009年のシドニーの学会ではPresident-electに任命された。この時の条件としてAFSUMBでのPresident-electを辞任するように当時のPresidentであったMichel Claudonから条件を出されたため、AFSUMBの関係者で話し合った結果、谷口先生とAFSUMBの方のPresident-electと Vice-

presidentとを交代することになった。AFSUMBの方では従って2007年から2010年の間の任期の途中で私がPresident-electからVice-presidentになり、谷口先生がVice-presidentからPresident-electになった。私はその後2010年のインドの学会の理事会からはTreasurerとして現在に至っている。またWFUMBでは2011年ウィーンの世界超音波医学会の理事会では私が予定通りPresidentに選任された。

以上、AFSUMBやWFUMBの理事としての活動やその学会のプロモーションが主な国際交流委員会の仕事であるが、もう一つ重要な事業として日本超音波医学会のFellowshipの選出が挙げられる。これは6か月の間、日本の指導医のもとでアジアの超音波医学会の加盟国の中から3名を選出し、1か月20万円の生活費を渡し、トータル120万円を渡して、勉強して帰ってもらうというものである。これまで、10か国、54人の人たちがこの制度によって日本に留学し、帰国したことになる。これらJSUM fellowshipでトレーニングを積んだ方々は現在アジアの各国で立派に指導的な立場にたって活躍している人が多い。

AFSUMBやWFUMBのもう一つの役割はアジアの各国においてworkshopを開催し、ハンズオンセミナーなどを行うことである。これまでもフィリピン、モンゴル、インドネシア、バンコク、インド、バングラデシュ、パキスタン、中国などの各地で2日～3日程度のworkshopを開き、ハンズオンセミナーなどを行って認定証を手渡してきた。今後の展望としては日本超音波医学会がア

ジアの国から、あるいは世界の国から存在感のある国として認識されることが重要である。現在、日本超音波医学会の正会員数は9,000名程度であり、会費もそれに応じて多く支払っているという経済的な貢献をしているにも関わらず、その存在感が十分にアジアや他の世界の他学会にそれ程

認識されているとは言い難い局面も少なからずあることも事実である。この点はもう少し日本がリーダーシップをとってアジアの国を主導的に牽引していき、世界の中でも visibilityを高めていくことが国際貢献のために極めて重要であり、この委員会の主目的にかなうものと考えている。

参考資料

歴代国際交流委員会委員長

開始年	役 職	氏 名
1988	委員長	福田 守道
1990	委員長	福田 守道
1992	委員長	渡邊 決
1996	委員長	幕内 雅敏
1998	委員長	松崎 益徳
2000	委員長	松崎 益徳
2002	委員長	工藤 正俊
2004	委員長	工藤 正俊
2006	委員長	工藤 正俊
2008	委員長	工藤 正俊
2010	委員長	工藤 正俊

フェローシップ研修生（1992年～2011年）受入人数

総 数	54名
国別内訳	
台湾	13名
バングラディッシュ	13名
中国	7名
タイ	5名
フィリピン	4名
カンボジア	3名
モンゴル	3名
インド	2名
インドネシア	2名
パキスタン	2名